

都市再生整備計画(第3回変更)

柳井駅周辺地区

山口県 柳井市

令和4年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	山口県	市町村名	やないし 柳井市	地区名	やないえきしゅうへん 柳井駅周辺地区	面積	69.9	ha							
計画期間	令和	1	年度	～	令和	6	年度	交付期間	令和	1	年度	～	令和	6	年度

目標
大目標：暮らす人や訪れる人にとって、快適なまちづくり ○地域の防災性、防犯性の向上による安全・安心のまちづくり ○交通環境の改善、地区の交流活動の場となる公園の整備による中心市街地のにぎわいの再生
目標設定の根拠
都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針） 本市においては、急速な人口減少と少子化・高齢化に伴い、市街地の低密度化や拡散が進行し、また、人口構造の変化による税収減と社会保障費の増加、老朽化する公共施設への対応など、財政運営は厳しさを増すと予想されるなど、大きな社会的課題を抱えています。今後、現在の都市構造のまま人口減少等が進むと、市街地の低密度化、困難な財政運営に拍車がかかり、福祉、医療、商業等の施設の減少や、鉄道、路線バス等公共交通の縮小など市民の日常生活に支障が生じる可能性もあります。 こうした状況に鑑み、本市は、「柳井市立地適正化計画」（令和4年3月公表予定）に定める次の3つの基本方針に基づき、市全体として集約型の都市構造形成を図るための取組を強力に推進し、柳井らしい暮らし方ができる持続可能なまちづくりを目指します。 【立地適正化の基本方針】 基本方針1：都市機能を維持・集積することにより、「都市の魅力」を守り育てる ・都市拠点において医療、福祉、商業施設などの都市機能を維持・集積し、幹線道路整備や公共交通との連携により、魅力ある「都市活動」の場を目指します。 基本方針2：高齢者や子育て世代など様々な世代が集まって、豊かに暮らせる「居住環境」を守り育てる ・都市施設整備の重点化やバリアフリー化を進め、生活サービスや居住をまちなかへ集約、誘導するコンパクトシティの形成を図ることにより、高齢者や子育て世代が健康で快適に暮らすことができる「居住環境」を目指します。 基本方針3：まちなかの人口密度を高め、安全で安心な「生活空間」を守り育てる ・空き家や低未利用地等のまちなか資源の活用を図るとともに、災害リスクを踏まえたソフト・ハードの防災対策を進め、安全で安心な「生活空間」を目指します。
まちづくりの経緯及び現況
本市は、古くから九州地方や対外貿易の要衝として繁栄し、江戸時代には「岩国藩の御納戸」と呼ばれたほどの商業地・柳井津として栄えました。今でこそかつての賑わいはありませんが、街なかを流れる柳井川左岸の古市金屋地区に現在も残されている白壁の美しい商家の町並みに往時の名残をそのまま留めています。まちなか全体が落ち着いた佇まいを見せる雰囲気の中にあって、江戸時代の商家が約200mにわたって軒を連ねる「白壁の町並み」は市民共有の財産であり、地域の誇りともなっています。 戦後も瀬戸内の商業都市として発展してきた本市では、白壁の町並みなどの歴史的遺産や恵まれた自然環境、気候風土を活かした観光・リゾート施設の整備を進めてきました。特に、広島市などの都市住民にとって、柳井地域は自然や田舎を満喫できる癒しの場であり、都市住民との多様な交流が広がっています。なかでも柳井駅周辺地区は、広域交通網の結節点としての機能が強化されるとともに、商業・業務等の都市機能の集積が進み、柳井広域都市圏の交流拠点としての役割を担ってきましたが、近年では人口減少と全国的にも高い高齢化率を背景に、地域経済の停滞、市街地環境の空洞化が顕著となっています。 こうした中、中心市街地活性化の観点から、幹線道路や地下道、駅前広場等の都市基盤施設の整備を積極的に進め、市民・事業者・行政の役割分担により幅広い取組を進めているところです。
課題
○事業所の撤退や施設の統廃合が進む中で、街中での大規模な公的不動産が未利用状態にあり、周辺環境にふさわしい利活用が求められています。 ○地区内における交流人口の拡大によるにぎわいづくりや地域に不足しているオープンスペースを確保するため、運動機能や防災機能を備えた公園整備を行う必要があります。 ○少子・高齢化が進む中、子育てがしやすく子どもたちが育める環境、老後も安心して住み続けられる環境づくりが求められています。 ○防災に対する市民の意識が高まり、安全・安心のまちづくりが求められる中、中心市街地において、長期避難が可能な防災機能を備えた広場などが皆無であることから、整備を図っていく必要があります。 ○狭隘道路や歩道未整備箇所において、車の離合や通学時、災害時における避難の際に安全性が確保が出来ていない状況です。また、災害時における緊急物資の輸送に必要な幅員の広い道路が求められていることから、交通環境の改善を進める必要があります。 ○柳井駅北側エリアにおいて、既存の集会施設、運動施設などの交流施設に訪れる際の駐車場が不足しており、車でのアクセスに支障をきたしていることから、整備を図っていく必要があります。
将来ビジョン（中長期）
・柳井駅周辺地区は、市内外から多様な人々が集う都市拠点として位置づけられます。 ・駅北側の歴史地区・文教地区や駅南側の公共サービス地区など、駅を中心として整備された行政、教育、文化、商業、交通、医療等の都市機能が集積された「中心市街地」のさらなる充実を図り、まちの顔にふさわしい風格のある都市景観の形成をめざします。 （柳井市総合計画・基本構想から抜粋）

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方 都市機能が一定程度充実している区域や、周辺からの公共交通によるアクセス利便性が高い区域など、立地適正化計画で規定する都市機能誘導区域の候補地区設定の考え方に基づき、一定の生活サービス機能が既に集積、立地しているJR柳井駅を中心とした南北に広がる市街地において、徒歩や自転車等により容易に移動できる範囲を都市機能誘導区域として設定することで、歩いて暮らせる利便性の高い市街地の形成を図ります。
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 貴重な公的不動産である柳井商業高等学校跡地を活用し、図書館を中心とした地域交流や防災機能を有する複合型市民交流施設を整備することにより、そこに暮らす人や訪れる人にとって快適なまちづくりを目指します。
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
						目標値	目標年度
計画地区内の居住人口	人	計画地区内における居住人口	柳井駅周辺地区において、地区の人が集う交流の場、防災拠点、インフラ整備など、暮らしやすい住環境の整備を進めることにより、まちなか居住人口の減少を抑制します。	2,2千人	H 2 9	2,2千人	R6
防災機能を備えた避難場所の収容人数の割合	%	計画地区内において、整備を行う防災機能を有した避難場所の収容人数と計画区域内人口の割合	マンホールトイレ、防災備蓄倉庫などの防災機能を備えた広場を整備することで、災害に強い安全で安心な環境づくりを進めます。	0%	H 2 9	68%	R6

計画区域の整備方針	
【安全で安心して暮らせる生活空間の創造】 ・災害時の安全確保に向けた拠点を整備することにより安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ・狹隘道路の拡幅や自歩道の設置を行うことで、車両の離合や自転車歩行者の安全な通行が可能となる交通環境を整備します。 ・安心して暮らせる環境づくりの一環として防犯対策を進めます。 ・子育て世代から高齢者まで幅広い世代にとって暮らしやすい道路、河川、公園等のインフラ整備を進めます。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業・道路】市道洲崎落合線道路改良 【基幹事業・道路】市道樋の上尾尻線道路改良 【基幹事業・公園】翠ヶ丘防災運動公園整備事業 【基幹事業・地域生活基盤施設】翠ヶ丘防災運動公園防災施設整備事業(マンホールトイレ) 【提案事業・地域創造支援事業】防犯カメラ等設置事業 【関連事業】市道姫田古市線道路改良事業 【関連事業】柳井川ふるさとの川整備事業
【交流人口の拡大、にぎわいの創出】 ・地区を訪れる観光客、来街者だけでなく、子育て世代から高齢者まで幅広い世代に対応した多目的トイレを整備します。 ・観光客、来街者の移動手段の拡充を図るため、駐車場の整備を進めます。 ・市民が交流を行い、賑わいを創出する場として、複合型市民交流施設を中心とした都市公園の整備を進めます。	【基幹事業・公園】翠ヶ丘防災運動公園整備事業 【基幹事業・地域生活基盤施設】翠ヶ丘防災運動公園駐車場整備事業(観光客用駐車場) 【基幹事業・高質空間形成施設】多目的トイレ整備事業(柳井駅前広場) 【基幹事業・地域生活基盤施設】複合型市民交流施設整備事業(防災備蓄倉庫) 【基幹事業・高次都市施設】複合型市民交流施設整備事業(交流スペース) 【基幹事業・誘導施設】複合型市民交流施設整備事業(図書館)
その他	
【柳井市観光振興ビジョン】 ・平成29年1月に策定された「柳井市観光振興ビジョン」では、「白壁の町並み」「麗都路通り」「柳井川」のエリア化を掲げています。 ・都市再生整備計画の実施に当たっては、同計画との整合を図りながら進めていくこととします。 【柳井商業高等学校跡地利活用基本構想】 ・平成30年5月に策定された「柳井商業高等学校跡地利活用基本構想」では、複合図書館を核とした防災機能を備えた都市公園の整備を掲げています。 ・現在、市民ワークショップの開催を通じて、構想の具現化に向けた取組がスタートしています。 ・都市再生整備計画の実施に当たっては、同構想における取組との整合を図りながら進めていくこととします。 【柳井市地域防災計画】 ・柳井市地域防災計画では、公園、緑地、緑道などの整備に当たっては、防災機能の確保を考慮しながら整備促進を図っていくと掲げています。 【民間団体との連携による中心市街地活性化の取組】 ・柳井駅周辺地区では、「柳井市白壁の町並みを守る会」「柳井につぼん晴れ街道協議会」「柳井中央商店街振興組合」「柳井駅通共栄会」や官民連携による「柳井市中心市街地街づくり推進委員会」などにより「日曜朝市」「街道ウォーク」や「三大祭り」をはじめとした地域の伝統行事の継承、道路や河川敷空間を活用した「バラソルショップ」や空き店舗を活用した「チャレンジショップ」が行われています。 ・都市再生整備計画の実施に当たっては、こうした取組との連携を図りながら進めていくこととします。	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

043

柳井駅周辺地区(山口県柳井市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標 暮らす人や訪れる人にとって、快適なまちづくり ○地域の防災性、防犯性の向上による安全・安心のまちづくり ○交通環境の改善、地域交流活動の場となる公園整備による中心市街地のにぎわいの再生	代表的な指標	計画地区内の居住人口 (人)	2.2千人 (H29年度) → 2.2千人 (R6年度)
			防災機能を備えた避難場所の収容人数の割合 (%)	0% (H29年度) → 68% (R6年度)

